

独立歩兵第三十一大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 和 二 三	<p>独立歩兵第三十一大隊編成完了 編成地 中華民国河北省正定縣正定 部隊長 陸軍大佐 田中省三郎 部隊の配備 大隊本部 正定縣城及其周辺警備 第一中隊 行唐縣城及其周辺警備 第二中隊 靈壽縣城及其周辺警備 第三中隊 在新樂縣東長壽京漢線沿線警備 第四中隊 照極縣城及其周辺警備 陸軍大佐 田中省三郎 旅団討伐参加中河北省陳莊附近の戦闘に於て 戦傷死(河北省石家荘陸軍病院に於て) 陸軍大佐 井上政次 部隊長として着任</p>
昭 和 二 三	
昭 和 二 三	

内
北
支

0543

年月日	概要
昭 一 二 三	<p>大隊本部を正定縣城より河北省新樂縣東新へ移動 陸軍中佐後藤三平部隊長として着任</p>
一 七 三	<p>陸軍大佐井上政広台湾花蓮港へ突撃部隊として赴任 警備変更のため河北省邢台縣へ移駐し同地附近の警備に任ず（二〇師團 と警備交代あり）</p>
一 七 四	<p>印隊の配備 大隊本部 沙河縣城及其周辺警備 一中隊 南和縣城及其周辺警備 二中隊 譚話村及其周辺警備並に小地封鎖線の確保（邢台縣） 三中隊 沙河縣功徳旺及其周辺警備並に小地封鎖線の確保 四中隊 沙河縣羊范鎮周辺警備及小地封鎖線の確保</p>
六 三	<p>陸軍中佐後藤三平大佐に直叙</p>
六 四	<p>陸軍中佐中西悠太郎隊長として着任</p>
六 四	<p>陸軍大佐後藤三平関東軍兵器部長として赴任</p>

年、月、日	昭
統	<p>昭 六 七 一</p> <p>支那駐屯歩兵、オ三隊隊（オ二十七師団）と警備交代の爲、河北省遷 安縣遷安に移駐、同地附近を警備す</p> <p>部隊の配備</p> <p>大隊本部 遷安縣羅家屯及其周辺警備</p> <p>オ一中隊 " 金廠峪及其周辺 "</p> <p>オ二中隊 " 連昌營及其周辺 "</p> <p>オ三 " 遷安縣城及其周辺警備</p> <p>オ四 " 遷安縣楊店子及其周辺警備</p> <p>大隊本部の位置を遷安縣城に移動</p> <p>オ一中隊の位置を遷安縣小松庄に移動</p> <p>オ一中隊の位置を羅家屯に移動</p> <p>オ三中隊の位置を盧龍縣城に移動</p> <p>陸軍少佐重加率三部隊長として着任</p>
統	<p>昭 六 八 一</p> <p>五 四</p>

0550

年月日	概要
昭五四	<p>陸軍大佐中西懋太（三月留級）関東軍第三地区隊長として赴任 師隊付一般警備主任支那特別警備隊に移譲し留守隊を遼寧省城北関河 範学校建て物内に位置せしめ主力は機動師隊として北翼東道全域の作 戦討伐に参加す</p>
昭五七	<p>軍令陸甲才一八号に依り改編下令 師隊付大隊本部、才一中隊、才二中隊、才三中隊、才四中隊、機動銃 中隊、歩兵砲中隊、通信隊の編成となる （昭二〇、四、三〇改編）</p>
昭二	<p>（完） 陸軍大尉 宮田藤吉 師隊長として着任す 陸軍少佐 室加幸三 才十三北支那独立警備隊長として赴任 （大隊本部及び才三中隊を室加少佐と共に独立警備隊編成要員として 転出）</p>
昭七四	<p>警備地区変更の爲 栗原 駐屯 長辛店（河北省宛平縣）到着</p>

年月日	概要
昭 三〇 七 三二 三 七 二五	<p>長年店出発 (一ノ三北支那特立警備隊と警備交代あり) 河北省密雲縣石匣鎮到着 部隊の既備 一ノ一中隊 旅団の直轄中隊となり、南張興縣城より北 北甸子に至る 京古線沿線の警備のため、左記に分散配置せらるる 密雲站望樓 孫家峪 九松山 小營站望樓 陳各莊石匣站望樓 放馬峪 高梁屯北甸子 受翁庄 董各庄 大隊主力は石匣鎮城内に集付候 大隊主力は一ノ一中隊より方面軍の命に依り、ソ蒙軍より南下熱境に備ふる為、密雲縣北口に集結、陣地構築に従事す</p>

0552

年月日	略
三二	<p>同日付士以て天津安站司令即勤務要員たるべき旨發令 同日休業隊編成同時に福勒務に任事</p>
三	<p>同日天津貨物廠に出發 天津貨物廠到着</p>
三	<p>集中營に於て武装解除 同日豊台集中營到着</p>
三	<p>帰國の爲 石運鎮出發 同日要縣城到着 帰國の爲 密雲出發</p>
三	<p>中支軍が九十二師團に警備移動</p>
九	<p>停戰協定締結</p>
八	<p>復員下令</p>
三	<p>ソ聯拉致抑留せらる</p>
三	<p>二十一、二兩日に亘り一日ソ蒙紛争に依り 部隊長以下四八八名</p>

年月日	記号	内容
三三三	三三三	<p>山内少尉以下三十九名、塘沽の埠頭勤務隊隊員として塘沽に向い出航同日、同地着同時に埠頭作業に従事</p> <p>(内三名は罹病天津主力に復帰 二一、一、二六、塘沽乗船)</p> <p>天津貨物廠内及塘沽勤務者、板野少尉以下天津出航塘沽より乗船同日附王以下作業隊解散命令及站司令官の指揮南脱</p> <p>佐世保上陸</p>
一五	一五	<p>同日復員帰郷召集解散</p>
二四	二四	<p>塘沽勤務者山内少尉以下二十二名帰国の為塘沽出航天津貨物廠乗船</p> <p>帰国の為、天津出航 塘沽より乗船</p>
二二	二二	<p>同日附王以下作業隊解散命令 及站司令官の指揮南脱</p> <p>佐世保上陸</p>
二七	二七	<p>同日同日召集解散(隊隊)</p>
二七	二七	<p>山内少尉勤務者(在生没一、在生下士官一) 残務整理者(即隊長代理二) 計三七名除く滞留者入院患者の一部を除く全員三八三名復員完了</p>

統 要

0554

独立歩兵第三十二大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和 二 一三	<p>独立歩兵第三十二大隊編成完了 編成地 中華民国河北省 第一代 部隊長 陸軍大佐 伊藤 部隊の既備 大隊本部 河北省晋縣縣城 第一中隊 第二中隊 晋縣田村 第三 第四 晋縣阜寧鐵道石德線警備 第二代 部隊長 陸軍中佐 十時 警備担任区域 第三代 部隊長 陸軍中佐 野田道 警備担任区域</p>
昭和 八 一五	

0555

昭 和 四	至自 八 七 七 三	至自 八 七 七	年 月 日
不四代 師隊長 陸軍中佐 山口 武臣 警備担任区域 河北省順德縣天津司令部	前半 大隊本部 鉦底原 中一中隊 隆平原 中二 鉦底原 中三 平御原 中四 廣宗原	後半 大隊本部 鉦底原 中一中隊 隆平原 中二 平御原 中三 廣宗原 中四 鉦底原	機 要

年 日	概
昭 六 七	<p>支那駐屯軍と警備交代の爲、河北省撫寧縣に移駐、同地附近に警備</p> <p>師隊長 陸軍中佐 山口 武正</p> <p>大隊本部 根 寧 毅</p> <p>一中隊 盧 龍 毅</p> <p>二 燕 家 庄</p> <p>三 撫 寧 縣 台頭堡</p> <p>四 幅 榆 泉 奉天刺鉄道警備（京山線自山海関至牛各庄間）</p>
五 三 三	<p>師隊長 陸軍大佐 坂 原 四 郎</p> <p>警備担任区域其他變化なし</p>
五 一 〇	<p>交代 部隊長 陸軍大尉 中 谷 兼 三</p> <p>（自五三 至三七）</p> <p>新隊員合兵力を以て總隊に集結約一ヶ月間冀東地区清正討伐</p>

年月日

昭
三
一
五

七
三

七
八

七
三

八
三

概

作戦

昭
三
一
五

七
三

七
八

七
三

八
三

大隊長 荒川 浩吉

昭三、四、三十日

編成隊正に依り大隊本部より主力警備隊要員として前部隊

長と共に救出す

根岸原務隊より山麓

河北省密雲県石匣鎮到着

附近周辺地区より南正討伐並に陣地構築諸準備

次中隊は昭三、七、三〇天津軍糧城の警備を命ぜり小、主力出發

大隊本部 主力不毛山に位置石匣鎮には留守隊を配置運送に任ず

次二、次四中隊並に通信銃火器中隊は、主力と共に作戦

次三中隊は密雲原沙場に着て、同地区一帯の警備を担当（旅回直轄

として）

部隊主力は古北口に於て南東軍務班と共に、同地の警備並に、ソ

蒙軍南下阻止の力の集結し、陣地構築の力の諸準備に當る

27

外

北

支

-108-

昭和
三
年
四
月
三十
日

0558

年月日	概
昭 三 八 二	ソノ蒙軍紛争に參加 復員下令 其ノ後石連鎮に於てソノ蒙軍南下阻止並に鐵道通電線 の確保
八 五	停戦協定締結
九 二	中央軍九十二師團に警備務讓
三 五	滿國の女め石連鎮出發同日漢雲原城到着
三 七	滿國の女め漢雲出發同日豊台集中營到着
三 九	集中營に於て武裝解除同日同所出發
三 二	天津貨物廠到着同日付を以て天津兵站司令部勤務要員として作業隊 編成諸勤務に従事
三 一	才ニ中隊長中山大尉以下二百五十名先發
三 一	即隊主力伊藤大尉以下九百名滿國の女め出發を命ぜり小 同日附を 以て熱倉大尉以下百名(徳廷勤務者)を隊に兵站司令官の指揮南院 佐世保上陸
一 二	同月同日復員隊隊召集解除

0559

年月日	
概 要	<p>昭 三 二 四 二 二 三 二 二 七</p> <p>塘沽勤務者帰国のため天津貨物廠に集結 帰国のため天津出發 塘沽港より乗船 同日附を以て作業隊長の指揮下海脱 佐也保上陸 同日同日隊隊召集 解散 山下勤務者衛生下士官以下九名を疎く及入院患者並に抑留者を疎く 全員復員完了</p>

28
7
文

北支那方面独立混成隊八旅団
独立歩兵隊三十三大隊部隊略歴

年月日	概要
昭 一 四 二 一 三	<p>独立歩兵隊三十三大隊編成完了 (後備歩兵隊三大隊を基幹とす) 編成地河北省順徳 部隊長 陸軍中佐 永 澤 正 美</p> <p>河北省石門に宿駐し附近を警備す 趙県に退却し左の如く位置し警備す</p> <p>趙県 〓 本部 一中隊 四中隊 元氏県 〓 二中隊 三中队</p> <p>陸軍中佐 松 尾 謙 三 部隊長として着任</p> <p>前部隊長 陸軍中佐 永 澤 正 美</p>
一 五 七 一 七	
〓	

0561

年月日	
概 要	<p>昭 五 三 七</p> <p>内地部隊長として赴任す 趙原警備を交代し河北省定県に進駐警備す 交代配備 定県城内 本部四中队 定県駅 二中队 安国県 三中队 朱定鎮 一中隊 陸軍中佐前広範夫 部隊長として着任 陸軍大佐 松尾 謙 三 内地部隊長として赴任 定県附近の警備を交代し河北省南宮に進駐警備す 交代配備 南宮県城内 本部一中隊</p>
28	外 北 支

0562

年月日		概
一七 一三 一七	<p>陸軍中佐 間 頼 担 平 即隊長として着任 陸軍中佐 前 広 節 次 内地部隊長として赴任 南宮県ノ警備を交代し北吳東道(鹽化)県に直駐警備す 兵力配備 鹽化県城内 本部ニ中隊 龍 庄 泉 四中隊 陶 家 屯 三中隊 旅団予備隊 一中隊 陸軍中佐 間 頼 担 平 びやわ派遣部隊長として赴任</p>	<p>南宮県重揚 二中隊 " 大高村 四中隊 新河原 三中隊</p>
一八 九 一〇		

29

内

北

支

年月日	概
昭 六 三 五	陸軍中佐 井原 誠一郎 部隊長として着任
五 四 三	陸軍少佐 田中 重 邦 部隊長として着任
五 三	陸軍中佐 井原 誠一郎 北支方面軍司令部附として赴任
七 七	部隊は一般警備を特別警備隊と交代し、留守隊を河北省豊潤縣城内に 留し主力は機動部隊として北要東道地域の討伐に従事す
三 七 五	部隊は蒙疆(張家口)に追駐し、特別市北方山地の陣地構築に従事す
八 三	日蘇情況の急変により部隊は東命令に基き二道河に前進、同地の守備 に任ず
八 二	敵道の命を受け行動開始
八 三 九	河北省保柔県に追駐し、交通線を確保す
三 三 九	内地撤退のため河北省備柔を出発
三 八	部隊長以下四名国軍の指命により天津に残留す

0564

年月日	
概	<p> 〇〇八 〇〇三 〇〇一 〇〇三 〇〇二 〇〇七 </p> <p> 艦出帆 佐世保上陸 志賀軍医大尉以下十七名、船内衛生部員としてシバ下船内に残留す シバ下要員として残留中の遠藤國夫以下七名上陸除隊す シバ下要員として残留中の下村軍曹以下十三名上陸除隊す 志賀大尉以下二名除隊す 天津に残留中の部隊長田中少佐以下四名上陸し、山田兵長以下三名除 隊、部隊長一名残箱整理のため三月二日本館に到着 </p>

0565

独立歩兵第三十四大隊部隊略歴

年月日	概	要
昭和二十二年三月	創設	
昭和二十二年三月	京漢線（石家荘 宝蓮寺）の鉄道警備に任ず	
昭和二十二年三月	京漢線（高碑店 - 清風店）の鉄道警備及新城、定興、容城、雄泉の警備に任ず	
昭和二十二年三月	主要な損害戦死三四名 戦傷三五名 戦病死五名	
昭和二十二年三月	冀中地区南正討伐	
昭和二十二年三月	主要な損害 戦死四名 戦傷死一名	
昭和二十二年三月	警備交代	
昭和二十二年三月	深武強鏡陽辺平の四県の警備に任ず	
昭和二十二年三月	南正討伐間の主要な損害戦死七〇名 戦傷八四名 戦病死二名	
昭和二十二年三月	行方不明二名 戦傷死四名	

0566

年月日	概
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	魯中作戦参加
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	第十一軍が二次冀南作戦参加
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	南正討伐の主要な損害
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	戦死三九名 戦傷一三九名 戦病死七名 変化 不慮死各一名
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	北支那方面軍十八夏大行作戦参加
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	警備交代
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	冀東道豊満、田、梁、張の警備に任ず
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	南正討伐間の主要な損害
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	戦傷四名 戦病死一名
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	第四中隊（中隊長以下一八三名）編成改正に依り、新設（独立歩兵中隊）
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	一九五大隊（要員として取属す）
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	冀東作戦
白 一七二二 至 一七二二 自 一七二二	冀東に於ける主要な損害

年月日	概要
概要	<p> 戦死四四名 戦傷死二名 戦病死二七名 対米軍機作戦準備の為、水四十三軍の指揮下に在り更に偵査機隊を (五)旅団長の指揮下に在り 膠嶺山麓家陣地構築に任ず 主として偵察 (自四月一五日 至八月一五日) 戦死 四 戦傷 協定 膠有線(滄口—南泉)鉄備に任ず 主として偵察 戦死三名 戦病死三名 戦傷七名 武装解除中国軍八軍に接收さる 倉口敵炭工場集中營にて所置準備 内地帰還のため 青島港出帆 佐世保港上陸 復員寸 総員九三五名 </p>

30
 内
 北
 支

0568

年月日	
概要	<p>事故者一〇七名 病院取崩者二二 入院院五八 内運着二三 生死不明者七 復員人員八二四名</p>

独立歩兵第三十五大隊部隊略歴

年月日	概要
昭和十四年三月	<p>独立歩兵第三十五大隊編成完了 編成地 中華民國河北省井陘県井陘 部隊長 陸軍中佐 森田栄吾 部隊の配備 大隊本部及び第四中队 井陘泉城及其周辺に警備 一中隊 石太線沿線警備 二中隊 井陘炭鉱警備 三中隊 平山泉城及其周辺に警備 陸軍中佐 吉田 卓 部隊長として着任す 陸軍中佐 森田栄吾 内地部隊長として赴任す</p>

0570

年月日	概
昭 七 四 一	<p>警備要更力為河北省内即ハ務駐シ、同地附近ハ警備ハ任セ</p> <p>大隊本部 内即県城及其周辺警備</p> <p>一中隊 滿城県及同県内警備</p> <p>二 内即県大羊庄及其周辺警備</p> <p>三 贊皇県城及同県内警備</p> <p>四 高邑県柏脚県堯小県ハ警備</p>
昭 七 八	<p>陸軍中佐 岡 友 一</p> <p>部隊長として着任す</p>
昭 七 一	<p>陸軍大佐 吉 田 年</p> <p>ビルマ方面部隊長として赴任す</p> <p>オニイ七師団と警備を代り為、河北省冀東道滦県ハ務駐、同地附近ニ</p> <p>警備す</p> <p>部隊ハ既備</p> <p>大隊本部 滦県張各庄及其周辺警備</p>

0571

年月日	概況
統 北 愛	<p>昭 二 六</p> <p>陸軍中佐 森 伴 藏 部隊長として着任す</p> <p>西</p> <p>陸軍中佐 岡 友 一 ジャバワ方面部隊長として赴任す</p> <p>五 四 九</p> <p>陸軍中佐 森 伴 藏 歩兵学校付として赴任す</p> <p>二</p> <p>陸軍中佐 野 坂 忠 良 部隊長として着任す</p> <p>七 一 七</p> <p>部隊は一般警備を北支那特別警備隊に移譲し、留駐隊を珠東備隊に 位置せしめ主力は補助部隊として冀東道全域の作戦討伐に従事す</p>

カ
七
支

年月日	昭 三 四 一
概	<p>陸軍中佐 野板 忠良 歩兵学校附として赴任す 陸軍大尉 山日 忠雄 初隊長として着任す 部隊は、不三旅五警備隊に既属を命ぜり、河北省通州へ移駐、通原 及北京四郊の警備に任ず 陪隊配備 大隊本部 三中队 四中队 機関銃中队 歩兵砲中队 通信隊 通州果城 二中队 面身小警備 一十隊 内頭炭鉱警備</p> <p>部隊主力は独立混成旅第一旅団に配属を命ぜり、河南省彰徳河北省邯 郸地区の作戦に参加す 留守隊は通州に位置し前任務続行</p>
要	三 七 三

年月日	概要
昭 三 八 日	旅団の警備変更に伴ひ、留守隊は河北省、緊要果古北口に移動す
〃	部隊主力は独立混成旅団の既編を解かし原形を復歸し天の柳を 出発
八 三	部隊は河北省緊要着同地の警備
〃	日蘇捕虜の急変に依り、部隊留守隊金沢大尉以下三一七名は河北省緊 要果古北口に於てソソル蒙軍に抑留せり
三 五	内地帰還の急隊要を出發
三 七	鈴木大尉以下一四四名、天津勤務隊員として勤務
三 三	塘沽出帆
三 三	北條軍医大尉以下一三名、米軍の申出に依り紅生部隊として、ソソ ル隊留
一 三	天津勤務隊 乾也保上陸 隊隊召集解散

<p>昭 三 一 三</p>	<p>年 月 日</p>
<p>三 一 三 三</p>	<p>概</p>

北條軍医大尉以下佐世係上陸隊召集解除
 宮次征生任長以下三名、天津勘筋隊に残留
 鈴木大尉以下、米軍指加残留者佐世係上陸隊、召集解除

0575

北支那方面軍
 独立混成隊八旅團砲兵隊部隊略歴

至	自	至	自	照	年月日	概	要
三 八 七	三 八 三	三 八 三	三 八 三	三 八 三	三 八 三	中華民國河北省深澤前平に於て 混成隊八旅團砲兵隊編成下令 編成見錯	
						河北省深澤前平附近に於て冀東道整備 旅團配備變更に伴ひ、冀東道を敏し、密雲県小管莊に自駐す	
						河北省密雲県小管莊に自駐を完了す	
						大東亞戦争終結詔書發布せり	
						密雲県古北口附近日ソ、陸軍勅令に參加 陸軍大尉、鈴木光一以下三百五十一名日ソ、陸軍に抑留せり	

0576

<p>昭 三 三 三 七</p>	<p>年 月 日</p>
<p>復員下令 内地帰還ノための河北省密雲県密雲出張 療養所出張 佐世保上陸復員</p>	<p>概 要</p>

-127-

0577

独立混成第八旅団工兵隊部隊略歴

年月日	概	要
昭和四年五月	軍令陸甲才一八号編成下令	編成完了
昭和四年五月	中華民國河北省、臨榆縣山海關に於て警備勤務	
昭和四年五月	中華民國河北省、臨榆縣龍興河秦皇島附近に於て、沿岸防禦警戒作業の實施	
昭和四年五月	旅団警備要領に於て小隊出動	
昭和四年五月	中華民國河北省張家口運鎮に到着	
昭和四年五月	中華民國河北省張家口運鎮に於て、警備勤務	
昭和四年五月	河北省張家口北口附近に於て、1日、ソ連軍機事件に參加警備要領に於て河北省張家口小隊に到着	

七
外
七
支

年月日	
続	<p> 自昭 三九 三九 三九 三九 三九 </p> <p> 河北省察蒙界小营庄に於て内地附近警備勤務 内地稀遷りたり察蒙界小营庄出発 塘沽若出帆 長崎興佐也係に上陸 </p>

北支那方面軍独立現成才八旅団

通信隊即隊略歴

年月日	概略
八	編成下令
八	橋本原守部官市に於て陸軍少將高木勇指揮率に独立混成才八旅団通信隊編成に入
八	北支那道に在り、官部官土山を
八	大阪若出報
八	糖塔老入若上陸
八	石家荘に到着
八	以併他五混成才八旅団に隷下に在り、主として、有黒線區信網の構成確保並に警備勤務に任じ、間断して作戦討伐に参加給ふ、前正に隨道せり

北支

年 月 日	昭 和 四 一
概	<p>旅団既備変更に伴ひ、石門地区に撤し、順徳に直駐 同日以降、順徳附近に在りて、有線通信網を構築確保並に、警備勤 務に任ず</p> <p>陸軍中佐 高木勇 通信隊長を免せり、独立歩兵第三十三大隊附 陸軍大尉 宮田藤吉 新に通信隊長を命じり、任ず</p> <p>旅団既備変更に伴ひ、順徳地区を撤し、冀東道に直駐す</p> <p>冀東道唐山市の移駐す</p> <p>同日以降、唐山附近に、有線通信網の確保、並に警備勤務に任ず</p> <p>陸軍大尉 宮田藤吉 通信隊長を免せり、独立歩兵第三十三大隊司令部 副官 陸軍中尉 三島晴新に通信隊長に任ず</p> <p>旅団既備変更に伴ひ、通信隊主力を以て旅団内に在留せし、冀東作戦に参加す</p> <p>陸軍中尉 三島晴新 通信隊長を免せり、新に独立歩兵第三十三大隊司令部 附、陸軍中尉 中里一雄に通信隊長に任ず</p>
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一
昭 和 四 一	昭 和 四 一

0581

年月日	機	要
昭和七年三月三十一日		旅団の既備変更に伴ひ、冀東道に撤し、密雲県附近に自駐す。
昭和七年三月三十一日		密雲県に移動し完了す。
昭和七年三月三十一日		大東亜戦争停戦詔書発布せり。
昭和七年三月三十一日		密雲県北口附近、日ソソノ軍軍紛争に参加す。
昭和七年三月三十一日		復員下令
昭和七年三月三十一日		内地帰還ノ為、河北省密雲県密雲出発
昭和七年三月三十一日		塘沽港出帆
昭和七年三月三十一日		佐世保上陸 復員
昭和七年三月三十一日		反力 (一昭三〇、一三、一七編)
昭和七年三月三十一日		第五混成旅八旅団通信隊
昭和七年三月三十一日		總頁 部隊長以下 二二三名
昭和七年三月三十一日		内訳 精校 九名
昭和七年三月三十一日		准士官下士官 三十三名

年月日	
概	<p> 入院患者 一〇〇名 死亡者 一三〇名 (死亡者は編成以降の調査) 生死不明者 二名 入院患者中へ名 運送隊隊しあこと判明、その戦所名探せし 二名、送付す (相原 松井 富下 鈴木 佐武 金子の倉) </p>

000

0583

独立歩兵第二旅団司令部部隊略歴

陸軍少将 阪部直臣

年月日	概 要
昭和二年三月	編成に就て 昭和一九年軍令陸甲中百十五号に依り、華北省石門に於て、編成完結
五三	初代旅団長 陸軍少将 柳川貞一 旅団長 更迭
五三	二代旅団長 陸軍少将 阪部直臣
五二	昭和二十年軍令陸甲中百十八号に依り、独立警備隊編成要員として大 隊本部に建制八個中隊を抽出改編せしめ、新に之を補填編成し、現 在に至る
五二	終 戦 前 編成完結後、百十師団より鎮定道二十二奥、勃嶺道之界り警備を継 承し、旅団司令部付隊内に位置し、治安の確保を主として井陘炭礦京張

14
内
北
支

0584

<p>至 三 二</p>	<p>終 戰 後</p> <p>以 降</p> <p>に 到 り 向 、 依 然 井 隆 炭 鉱 並 に 京 葉 線 、 石 太 線 、 の 警 備 を 担 任 す 此 の 間 、 独 立 程 成 一 旅 団 主 力 及 同 の 指 揮 下 に 入 ら し め る 初 頭 前 頭 警 備 を 中 國 と 交 代 し 、 独 立 程 成 一 旅 団 を 復 員 の 為 、 平 津 地 区 に 転 進 せ し む る と 共 に 隸 本 各 大 隊 を 平 津 地 区 諸 勤 務 に 配 せ し む る 遂 に 転 進 せ し む る</p> <p>此 の 間 、 石 家 荘 地 区 受 附 主 官 、 羅 歷 我 中 將 の 武 裝 解 隊 を 受 け 、 用 筋 に 終 了 す</p>
----------------------	---

0585

年月日	昭 三 三 七
機 要	<p> 蘇下各部隊並に總隊後各軍團指揮下に入りしものれは、諸隊一北支那 歩兵下士官候補隊並に他、補給諸支隊一及石家莊居留民を天津に遣 出せしめたる後、旅團司令部は、昭和二十一年三月十五日石家莊出發 一天津に到り、第四十八師團の指揮下に入りしものる。 第四十八師團の復員に伴ひ、天津地内日本投降代表の任を継承し、蘇 下指揮下部隊として天津市内に於ける木質物殊勳務に服せしむ。 蘇下指揮下部隊を復員せしめたる後、昭和二十一年四月二十七日復員 為、天津貨物廠に集結す。 戦斗詳報 昭和一九年三月二十五日以降、華北省冀東道二十二年及渤海道八県の 治安維持に任ぜられたるのみにて、旅團として作戦戦斗なし。 </p>

0586

旅立歩兵第二旅団司令部

(昭和一四五三) 部隊略歴

陸軍少将 阪部直臣

年月日	
概	<p>部隊主力と各戦線の行動</p> <p>戦犯官署の入り天津に残留の処</p> <p>解除と有り勅達の一三四大隊指揮官 丸山大尉の指揮を受け</p> <p>陸軍中尉 高瀬 三郎</p> <p>中送り</p> <p>昭和二十一年五月三十一日 岡保書類の整備を完了し佐世保出張所人員班に預託帰郷す</p>

独立歩兵第三旅団司令部部隊略歴

旅団長 少将 服部直臣

年月日	
概要	<p>軍医中尉井口武男 分府帰国の目的を以て天津出發 旅団司令部主務と分府す</p> <p>菅沼忠出帆</p> <p>輸送指揮独立歩兵第百九十七大隊長 佐 中 佐</p> <p>佐世保上陸 本人は福建省に独立歩兵第百九十八大隊曹長 小 田 朝</p> <p>二、六之七依頼す</p> <p>小田曹長は五月五日、自己部隊主力の残務整理に任じられた後、五月十三日、井口中尉の残務処理に任ず</p>

05
内
北
反

第五混成旅団司令部部隊略歴

年月日	概略
昭和三年三月	昭和三年三月陸軍中少佐に任じ編成下令
三月	独立混成旅団司令部編成着手（北京先明殿）
三月	編成完了
三月	務略の海北京出発
三月	蒙古聯合自治政府張家口特別市着、同地附近警備
三月	張家口撤退
三月	河北省昌平縣沙河鎮着同地附近警備
三月	沙河鎮出発
三月	豊台着、武装解除
三月	豊台出発（一次）
三月	天津着（一次）
三月	内地帰還の爲天津出発（一次）

日	月	年
一	三	一
二	三	一
三	三	一
四	三	一
五	三	一
六	三	一
七	三	一
八	三	一
九	三	一
十	三	一
十一	三	一
十二	三	一
十三	三	一
十四	三	一
十五	三	一
十六	三	一
十七	三	一
十八	三	一
十九	三	一
二十	三	一
二十一	三	一
二十二	三	一
二十三	三	一
二十四	三	一
二十五	三	一
二十六	三	一
二十七	三	一
二十八	三	一
二十九	三	一
三十	三	一

德沽着乘船 (才一尺)
 德沽着出帆 (")
 佐世保港上陸 (")
 佐世保港上陸 (")
 陳餘百某開隊 (")
 德沽着乘船 (")
 德沽着出帆 (")
 天津港 (")
 天津港 (")
 豊台港 (")
 豊台港 (")
 北京港 (才一尺)
 陳餘百某開隊 (")
 佐世保港上陸 (")
 德沽着出帆 (")

税
 税

年月日	略
概	<p>北京北苑に於て編成以來終戦に至る迄、支那華夏並に東亞戦役、支那方面勤務に従事し張家口特別市に位置し、周辺の警備に従事し以て管内の治安維持に任じたり</p> <p>編成以來の死没者は、旅団長故陸軍中將 阿部規秀以下七名に於て、終戦後の死没なし内訳左の如し</p> <p>戦死 將 校 一</p> <p>下士官 一</p> <p>戦病死 下士官 一</p> <p>死 兵 二</p> <p>軍属 二</p> <p>生死不明者は陸軍軍曹 新井甲路一名にして、終戦後に於て警衆兵として服務中北京に於て兩隊逃亡せしものにして、該人は戦前出身の下士官なり</p>

年月日	概
八 九	<p>終戦前の状況 ソソ隊新編と戦直師団と共に旅団は対北方作戦の進行 主力を以て張北果丈一師団に前進該地に於てソソ軍の南下に對する 遂行を準備中、終戦に到る</p>
八 二	<p>終戦後の状況 九一師団に在りてソソ軍の侵入阻止に任じたるも八月三十一日、上 司の命に依り撤退す</p>
八 五	<p>河北省昌平縣南口に到着 沙河鎮に到着、同地附近に警備を担任</p>
二 三	<p>警備を中國軍九十四師に移譲し、武装解除のため同地出発</p>
二 七	<p>豊台に於て中國軍九十三師団長により、武装を解除</p>
三 五	<p>豊台出発 (カニ次)</p>
二 七	<p>天祥着 (カ一次)</p>
三 五	<p>天祥着 (カニ次)</p>

年 月 日	概
二 三 三	天津發 (才一次)
二 三 三	塘沽着來艦 ()
三 三 三	塘沽港出帆 ()
三 三 三	佐世保港上陸 ()
三 三 三	陳隊召集解散 ()

L
S
T

独立歩兵第二旅団

司令部の一部部隊行動

陸軍中尉 小林 桂三郎

年月日	概
昭三三	小林中尉以下五名先登の大穴の天守筒物敵に入所 出登の際に砲止準射撃を遂行のたりに残留 小林中尉以下四名 M-10 五文隊の一部としてレストトにより、薩志出 航 佐世保上陸
三三	
三三	
三三	
四五	

26
外
北
交

0594

独立歩兵次二旅団司令部の一部

(軍属が二中队) 部隊略歴

年月日	機要
<p>至自 三三 三三</p>	<p>輸送指揮官 陸軍少尉 鈴木 梨 陸軍衛生科 宮川 正明 輸送人員 軍属二十七名 (天津に於て戦犯等難者二名 出産看護員その他馬三名計五名残留せりも本表に含まず) 行動の概要 河北南石家荘出發 豊台着貨物廠内收容所に入所す</p>

支
内
北
支

年 月 日	
概	<p>三二 豊台収着所発回二十日天津着貨物取内収着所入所寸</p> <p>三三 天津収着所発回日塘沽港着即日葉船出帆寸</p> <p>三三 仙崎港着同三十日上陸寸</p> <p>四一 右同月同日復員完結寸</p> <p>四月 残務整理ノ件四月一日陸軍展小原忠ニ日市復員本部ハ出願セシメ 四月 日 完了寸</p>